

## 第2回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時：2003年11月13日（木）10時～12時20分
2. 場所：財団法人自動車リサイクル促進センター313号室
3. 委員の現在数：7名
4. 出席者と人数：永田委員長、酒井委員、辰巳委員、松田委員、米澤委員、渡辺委員

以上 6名出席

その他(財)自動車リサイクル促進センター事務局、  
経済産業省・環境省担当官が出席

5. 議題：①資金管理業務規程（案）及び事業計画書（案）・収支予算書（案）について  
②経理処理の基本的考え方について  
③運用方針に関する基本的考え方（案）について

### 6. 議事録

#### (1) 議題①について

「資金管理業務規程（案）の修正について」「資金管理業務規程（修正案）」「資金管理業務諮問委員会等における情報公開の考え方」「平成15年度資金管理業務に関する事業計画書（案）」「平成15年度資金管理料金特別会計 収支予算書（案）」について、資料3—1～5（含む参考）を使用して事務局から説明。

資金管理業務規程（修正案）、資金管理業務諮問委員会等における情報公開の考え方、平成15年度資金管理業務に関する事業計画書（案）は了解された。また、平成15年度資金管理料金特別会計・収支予算書（案）については、今年度の費用負担は当面の考え方に基づくこと、今年度の資金不足は来年度に金融機関からつなぎ資金を調達して充当する旨を脚注に追記することとして、資料の修正を委員長に一任することとなった。委員からは以下のような意見があった。

#### 主な質疑・意見

(注) ◇は委員からの質問・意見 ◆は事務局からの回答

<業務規程（修正案）、情報公開の考え方>

◇これで問題ないと思う。

<組織図について>

◇指定法人機能を担うことや資金管理センターの独立性をわかりやすく表せるよう工夫すべきである。

◇離島対策等検討会もでき、再資源化支援部とも密接になる。組織図を明確に整理してほしい。

◆機能の明確化のため、組織図をどのように書けばよいかを検討する。

<事業計画書（案）、収支予算書（案）>

◇事業計画書（案）はこれでよいと思う。

◇収支予算書（案）について、事業費の負担の在り方は、まずは審議会で議論すべき話ではないか。したがって、今年度の資金管理法人としての収支予算書における負担の考え方は、当面の考え方に基づくもの、として整理している旨の注記が必要である。

◆今回資金管理料金として自動車所有者に負担いただく費用の範囲については従前審議会での整理に従ったものであるが、今後開催される審議会の中で、費用負担の具体的在り方についてより詳細の議論がなされるものと考えられるため、御指摘の旨の注記をすることとする。

◇今年度は5, 700万円の赤字で、来年度借り入れをして支払う予定であれば、来年度の債務負担行為を現時点で決めることになるので、その旨を脚注に表示しなければならない。

◆その旨を脚注として注記することとする。

◇既販車登録情報取得費は、国土交通省に支払うものか。

◆（財）自動車検査登録協力会（自検協）が国土交通省から購入して編集したものを、自検協から購入する。

◇登録情報400万台分は1～3月のテスト用のものであるのか。

◆テスト用。

◇理解普及活動費の内訳はあるのか。

◆説明会資料制作費、会場借用料、旅費・交通費、説明会資料等送料を各々積み上げて計算したもの。

◇最終的に決算では明らかになるのか。

- ◆決算では当然に明らかになる。
- ◇コールセンターは、実体上は資金管理センター内に置くのか。
- ◆アウトソースすることとなる予定。

(2) 議題②について

「資金管理センターにおける経理処理の基本的考え方」について、資料4（含む別紙、参考）を使用して事務局が報告。委員からは特段の意見は出なかった。

(3) 議題③について

「再資源化預託金等の運用方針に関する基本的考え方（案）」について、資料5（含む別紙、参考）を使用して事務局から説明。委員からは以下のような意見があった。

<運用方針に関する基本的考え方（案）>

- ◇ラダー型の債券運用は安全確実な方法である。
- ◇ラダー型の債券運用はインフレ時に利回りでついていけないという面があるので、インフレ時の対応をどうするかといったルールを決めておく必要がある。
- ◇自動車保有台数の増え方をどう見積もっていくか、自動車の平均保有期間の変化などの状況変化に対応したシナリオ作りも重要である。
- ◇今後メーカーの努力によるリサイクルが容易な設計やリサイクル技術の進展によって、リサイクル料金の低下が予想されるため、そのことも考えてキャッシュフローの規模を考える必要がある。
- ◇年度単位の収入と支出がバランスする必要はない。預託金が1万円ならば払渡し時に1万円プラス利息、預託金が2万円ならば、2万円プラス利息となるわけで、預託金の総額が減少していくだけである。
- ◇利息の具体的な水準はどの程度となるのか。
- ◆運用商品が決まると利息も推定できる。例えば、10年国債だと、クーポンは現在年1.4%くらい。したがって100億円で年間利息は約1.4億円。極めて単純化すれば、10年後には100億円プラス利息約1.4億円になる。
- ◇預託されたリサイクル料金にどの程度の利息が付くかというこ

とは、国民の関心事項であり、そういう観点からの情報公開も重要である。

- ◇預託されたりサイクル料金等を運用するに当って、期待利回りを定めてそれを下回らないように運用することが重要である。また、期待利回りの設定の仕方、評価の方法についても今後詰める必要がある。
- ◇資金運用は元本確保が一番重要であり、市場動向を踏まえた期待利回りはあくまでも元本確保を前提としたものであるべき。
- ◇受託者としての資金管理センターの責任・責務についても「運用の基本方針」等の中で明示していくことが重要である。なお、これは、やるべき業務プロセスを行わない場合に発生する責任のことで、やるべき事を適正に実施した結果としての成果については責任を負うものではないというのが一般的である。
- ◆「受託者としての責任」の項目を基本方針の中に入れるかどうかも含め、本日の御議論の内容を踏まえ、基本方針案を検討し、3月に開催予定の諮問委員会までに詳細を詰めていくこととしたい。

以上